



やさしさと 思いやりで

笑顔がいっぱい！



被爆80年を迎えて

80年前の今日、1945年8月9日、午前11時2分。山里小から約600mの場所に、原子爆弾が落とされ、一瞬にして多くの命が奪われました。亡くなった山里小の児童の数は、1300人と言われています。たった一つの爆弾で、こんなにもたくさんの命が、一瞬にして奪われたのです。

校長室の書庫の中には、「学籍簿」というものが残されており、昭和20年当時の物も現存しています。一人一人の氏名、生年月日、住所等が書かれてあり、学年ごとの成績なども残されています。今でいう「指導要録」にあたるものです。当時の小学生が、学校生活を送っていた証がここにあります。



写真は「死亡者」と「生死不明者」の学籍簿の綴りです。たいへん貴重な資料です。当時の児童の原爆による死亡者約1300人は、ここに根拠があるものと思われます。

学籍簿には、「昭和20年8月9日原子爆弾により死亡」と、はっきり書かれたものもあります。この記述通り、子どもたちには、明日はありませんでした。家族と笑い合うこと、友達と楽しく遊ぶこと、学校で勉強すること、そんな当たり前前前のことができないまま、亡くなってしまいました。

今は、この平和な日本で、当たり前のように学校に通い、勉強し、友達と笑い合うことができます。この「当たり前」が、どれほど素晴らしいことなのか、どれほど尊いことなのか、このことを改めて噛みしめたいと思います。

平和祈念集会で子どもたちが発表した「平和の誓い」の中に、こんな言葉があります。

80年前 お兄さんお姉さんが手にすることができなかったこの平和を私たちは 世界中の だれよりも 望みます。
山里小学校の 私たちは この手でしっかりと平和を守り続けることを 誓います。

決意のこもった力強い言葉です。

この言葉どおり、被爆地長崎で育ち、被爆校の山里小で学んできた子どもたちには、平和の尊さを多くの人に発信していく役割があります。

6年生の約30名は、平和公園で、城山小の仲間と、平和への願いを込めて「クスノキ」を合唱しました。魂の歌声が響き合い、多くの人に感動を与えました。

爆心地公園には、はばたき学級が昨年12月に制作した「キッズゲルニカ」が飾られています。これも多くの人に平和への願いを届けています。

とても素晴らしいことです。

それに加えて、大切にしたいのは、普段の学校生活です。山里小の学校教育目標「やさしさと思いやりで笑顔がいっぱい～認め合い励まし合いステップアップ山里っ子～」を実現することこそ、平和を築く大切な一歩です。

例えば、みんなで仲良く遊ぶこと。友達に「だいじょうぶ」と声をかけること。仲間に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えること。小さなことかもしれませんが、そうした一つひとつの行動が、平和な世界へとつながっていきます。

被爆80年目の今日、亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りし、私たちの手でしっかりと平和を守り続けることを誓いたいと思います。

本日、北海道、大分県、宮崎県、大阪府など、全国各地から多くの方が山里小に駆けつけてくださいました。心から感謝いたします。

北海道伊達市からの6年生1名、大分県竹田市からの5年生3名は、朝から本校児童とともに平和について学びました。

改めて、山里小の役割や使命を考えさせられた次第です。